

新型コロナがなかなか収束しない中、WEBでの会議や打合せ・検定など、時間短縮や人員調整がしやすくなった反面、コミュニケーションが手薄になっていると感じている人も多いと思います。

対面なら相手のちょっとした動きから伝わっていると感じとれますが、WEBだとちょっとしたニュアンスが感じ取れず、一方的に伝えるだけで精一杯になってしまうことも多く、苦労しています。「伝える」と「伝わる」、この違いはいろんなところで良くてできますが、WEBが主流になった近年は、特にその難しさを実感しています。年齢と経験を重ねるほど「伝える」ことが上手になります。専門性の高い技術士だからこそ、「相手にどのように伝わっているか」を意識して、より簡単に、分かりやすい説明・資料作りを心掛けたいと思います。

また、地質・土質の専門家としては、災害に対応することが社会に対する使命だと思っています。大規模かつ広域な地震災害、局所的な斜面災害など、決断力と迅速さが求められます。それに対応できる技術者を育て、引き継いでいくことも我々技術士の責務であり、そういう取り組みや努力を続けていきたいと思っています。

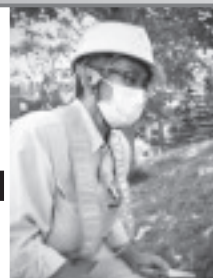
こんな私も今年で52歳、仕事とプライベートの両立、そして幸せになることを考える時間が増えてきました。プライベートでは、海や山にアウトドアの他、ガーデニングやDIY、やりたいことが多く、さらに仕事に責任が加わると時間が足りません。そんな中でも、トレードオフに対する解決策を見つけて出すのが技術士！ いろんな意味で“技術士”を生かした人生を今後も楽しみたいです。

工藤 忠(くどう ただし)

●建設部門(土質及び基礎)

勤務先

株式会社エーティック



→次号は、波多野雅浩さん(建設部門)

私は、高校卒業後に生まれ故郷の兵庫県を離れ、大学進学のため北海道へ移住してきました。大学卒業後に札幌の建設コンサルタントで臨時職員を経験したことが業界を知るきっかけとなり、現場もデスクワークも両方やりたい自分にぴったりだと思って2010(平成22)年度に現在の職場へ入社しました。入社後は農業分野の調査・解析を担う課に配属され、土地改良事業の計画や評価に関する土壌・作物の調査を中心としつつ、畑地から発生する温室効果ガスの評価や農業水利施設の長寿命化など、多種多様な仕事を担当しています。中には、ハエ取り紙でヤナギの綿毛を捕集して数や密度を計測するという、いま思い出しても不思議？な調査もあり、割と何でも屋のような役回りです。

入社から4年ほど経過した時、最初は何となく、周りに流されるように技術士試験を受け始めましたが、そんな動機・姿勢で報われるわけもなく、数回不合格の憂き目を見ることに。その後、結婚・出産と自身の生活環境がガラリと変わったことに加えて、提案型の入札方式が増加するなど、技術者の力を客観的に示す必要性が大きくなってきたという時代の流れの中、ようやく本腰を入れて努力し、2016(平成28)年度に農村環境、2018(平成30)年度に農業土木を取得できました。合格後は管理技術者として業務に従事する機会が増え、技術的側面だけではなく工程・コスト・労務などを管理する、といったように責任が重くなりましたが、その分、やりがいも大きくなったように感じます(お給料の面でも…)。とりとめのない自己紹介になってしまいましたが、気候変動やICTの進展など、農業を取り巻く情勢は日々変化しているので、これからも何でも屋として研鑽を重ねたいと思います。

塩飽 宏輔(しおあく こうすけ)

●農業部門(農業土木、農村環境)

勤務先

株式会社ズコーシャ



→次号は、村山和佳さん(農業部門)